

## 第10回岐阜県都市公園活性化懇談会 議事要旨

日 時：令和2年9月16日 10:00～11:30

場 所：県庁 4階 特別会議室

### 1 事務局説明

- ・「都市公園活性化基本戦略による取組成果」、「with コロナに対応した新たな公園運営」及び「県営都市公園の今後の方向性」について、事務局が説明

### 2 意見交換

#### ○意見

- ・公園で行っている取り組みは最先端だが、最先端であることをもっと発信すべき。
- ・どの地域に行ったら何ができるのか、何が食べられるのかを広域的に考えること。地元でしか食べられないものがあるとなおよい。
- ・コロナ禍において大都市圏にオフィスがあることのリスクが再認識されたが、交通の便がよく、資源の多い岐阜県は首都機能の一部移転の受け皿になり得る。交流人口の増加というより、県全体の人口を増加させるような戦略を考えるとよい。
- ・個人客や近場の住民の誘客が必要。コロナの影響でアウトドアがより盛んになるのでチャンスがあるのではないか。都市公園は修学旅行や遠足の受け皿として素晴らしい場所である。
- ・全国の県営公園クラスの規模の公園の中で、県を挙げて取り組んでいる例はないので、全国の参考になる。これからの公園運営を考える上で、コロナを意識しなければならない。「健康」「家族」「癒し」がキーワードになってくる。
- ・「県営都市公園」という県が運営しているという固定概念を外し、公園が観光にも使える点を民間と協働しながら進めていくべき。
- ・消費は滞在時間に比例する。単純に開園時間を延ばすのではなく、長時間滞在できるようなプログラムやアクティビティもあわせて考えること。
- ・女性の消費行動が大きい。女性と乳児が行動を共にすることが多いので、女性と乳児を公園のメインターゲットとしてはどうか。
- ・小規模事業者に対する勉強会等を通して地元の事業者が公園の取り組みを認知してもらうことで、お土産などで連携ができるのではないか。
- ・ぎふ木遊館、関ヶ原古戦場記念館、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館など、様々な拠点が整備されている。広域的に施設、歴史・文化、食の魅力をネットワークし、地域経済の活性化に繋げてはどうか。
- ・公園らしからぬ利用法として、奥さんと子供が公園に行くのではなく、旦那が公園でテレワークをしてはどうか。逆転の発想で考えるのもおもしろい。
- ・各公園でそれぞれテーマを持った体験コンテンツ、観光コンテンツを地域資源や健康・子育ての観点と連携しながら作る事が重要。ドイツでは保健医療とも繋がって、テーマを持った体験プログラムができています。各地域の持っている地域資源・食・文化の特性を活かした岐阜県らしいプログラムを作ることが重要。

- ・先端産業やクリエイティブな仕事と非常に親和性が高い公園は、極めて重要なライフスタイルの展示場であるので、それを目指してもらいたい。
- ・人間が非日常になるということが大事なので、花フェスタ記念公園でコスプレ大会を実施してはどうか。バラに囲まれてお姫様になる、というある種の非日常が体験できる。
- ・イベント名称も含め、いかにネーミングから魅力あるものとして認知してもらうかが重要。花フェスタ記念公園やこのプロジェクト全体の名称も変えるべき。
- ・周辺地域や公園間での連携など、都市公園を広く捉えていくことが次のフェーズ。
- ・都市公園は集客数で判断しがちだが、コロナ社会の中で、何を魅せるか、何を感じてもらえるか、公園とは何ぞやという議論も必要である。
- ・テーマはどんどん広がっていくので、次なる戦略の骨格を整理する中で、都市公園という切り口でありとあらゆることを議論したい。
- ・県営公園も多様性を持ってよいのではないか。管理運営においては、単に県費を投入していくのか、どこを民間に開放していくのか、地域産業の活性化など、さまざまな視点を交えて長期的な視点で公園のレベルアップを考える必要がある。